

理科実験準備等支援事業

H30年10月

予算額¥8,820,000-の内、
¥1,903,000-は国の補助金。

経過

年度	配置校数	
25	33校	3年で希望校を一巡
26	33校	
27	32校	
28	27校	配置回数の多い特別配置や継続配置を行い、効果を検証
29	28校	
30	30校	

めざす効果

今後も継続配置と訪問指導を実施し、平成33年度全国学テ、教員アンケート等により効果を測定する。

「児童の観察・実験を充実」

・教え込む授業から子どもが考える授業へ 実験の安全性も確保

「学校における働き方改革」

・教員が子どもに向き合ったり、授業を改善したりできる時間を確保

「教員の指導力向上」

・アシスタントの支援による教員の観察実験技能向上

・授業改革担当指導員の授業観察指導による教員の授業力向上

「理科の観察に使用する設備の準備・調整等を行う補助員の配置に引き続き取り組むことが必要である。」

新・小学校学習指導要領(平成29年告示)解説理科編(P.11)

平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
2年間の継続配置と訪問指導		2年間の継続配置と訪問指導	

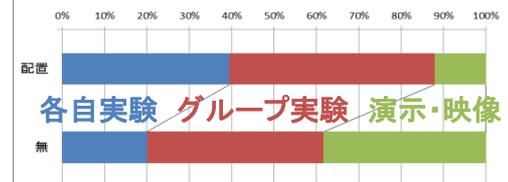
継続

全国学調に見る配置の効果

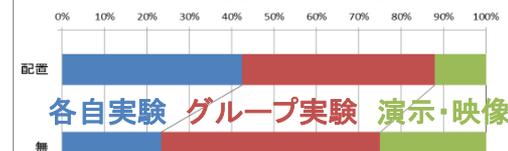
	正答率の堺市平均正答率との差 (H27とH30との比較)
H29配置校 (28校)	+0.4
H29&H28配置校 (15校)	+1.6
H29&H28&H27配置校 (8校)	+2.5
H29特別配置校 (倍の配置回数、4校)	+2.7

実験観察の充実

5年観察①【ヘチマの花のつくり】



5年観察②【ヘチマの花粉】



成果

・H29年度からは授業改革担当指導員等による配置校への訪問指導を実施し定着。

全国学調	H27	H30
全国	60.8	60.3
堺市	57.7	59
大阪	57.3	57

大阪府の平均を上回り、全国平均に近づいている。